

「遠赤外線療法が維持透析患者のシャント肢末梢循環に及ぼす影響」 に関するお知らせ

このたび、当院で治療を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学病院 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等
を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人
の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になる
ことは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2025年10月22日～2026年2月28日までに当院透析室で遠赤外線療法を施行している維持血液透
析患者10名を対象。

1-1) 研究対象者背景

除外項目を除いた当院の外来透析患者とし、以下の項目を診療録より収集する。

- ・年齢、性別
- ・原疾患
- ・透析歴
- ・シャント情報（作成部位、エコー所見等）
- ・既往歴（糖尿病、心血管疾患等）

2. 研究の目的

レーザードップラー血流計（Laser doppler flowmetry: LDF）を用い、フィラピー照射による透析
シャント肢の末梢血流変化を探索的に評価する。

3. 研究期間

病院長の許可後～2029年3月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2026年3月16日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

- 1-1) 情報の保管方法・保管期間
- 情報の種類（LDF 値）

データはUSBメモリーに記録し、個人を識別できないようにした状態で保管する。保管期間は、研究終了報告後5年間又は研究結果の最終公表後3年間とする。

1-2) 他機関との試料・情報の授受に関する記録

本研究では該当しない。

1-3) 試料・情報の廃棄方法

保管期間終了後速やかに再生不可能な状態に処理される。

本研究で得られた情報を将来別の研究に用いる際は、改めて埼玉医科大学病院 IRB に申請する等の適正な手続きを行う。

2. 試料・情報の取得方法

フィラピー治療施行のデータおよび診療記録等を用います。

2. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

3.

埼玉医科大学病院	腎臓内科	岡田 浩一（研究責任者）
埼玉医科大学病院	腎臓内科	友利 浩司
埼玉医科大学病院	腎臓内科	天野 博明
埼玉医科大学病院	臨床工学部	西澤 秀行
埼玉医科大学病院	臨床工学部	鳴海 敏行
埼玉医科大学病院	臨床工学部	村石 大樹
埼玉医科大学病院	臨床工学部	吉田 雅毅
埼玉医科大学病院	臨床工学部	村杉 浩

4. 試料・情報の管理責任者

【埼玉医科大学病院】 病院長 篠塚 望

5. 試料・情報の提供方法等について

該当なし。

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

所属部署 臨床工学部 氏名西澤 秀行

〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

[Tel:049-276-1639](tel:049-276-1639) Fax:049-276-1606 E-mail : nishizawa.hideyuki@1972.saitama-med.ac.jp

○研究課題名：遠赤外線療法が維持透析患者のシャント肢末梢循環に及ぼす影響

○研究責任者：埼玉医科大学病院 臨床工学部 西澤 秀行 a